

3. 山田町の現状と課題

3-1. 山田町の概況

(1) 地勢

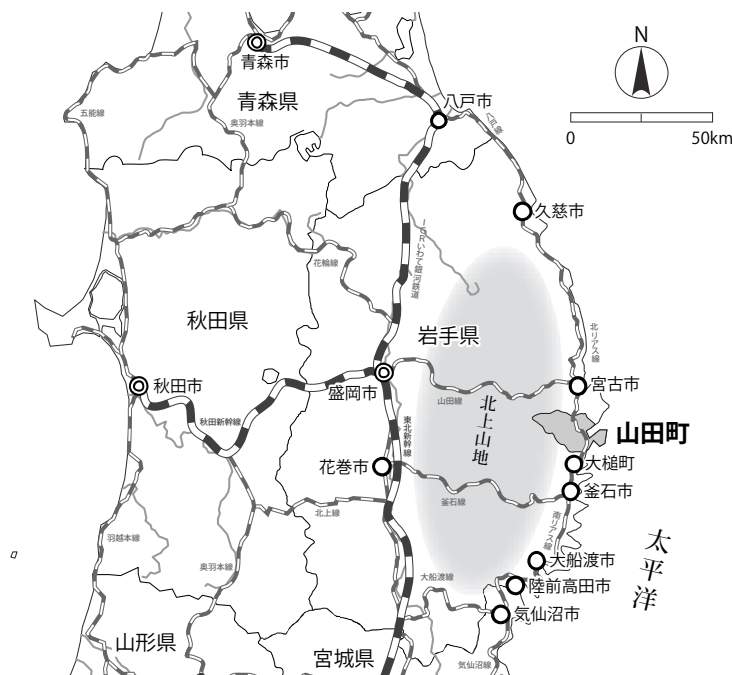
① 位置、自然

岩手県下閉伊郡山田町は、岩手県の沿岸部陸中海岸のほぼ中央に位置する(極東 142 度 03 分 54 秒、極北 39 度 33 分 40 秒)。面積 263.45km²。町の北部は宮古市、西部から南部にかけては大槌町に隣接し、東部は太平洋に面している(図 3-1)。東部は北上山地が太平洋に沈降する典型的なリアス式海岸である。山田湾と船越湾の二つの湾を擁している。

一部地域は三陸復興国立公園に指定されており(図 3-2)、壁岩、磯、赤松等の海岸性原生自然の景観に優れ、学術的にも価値が高い。

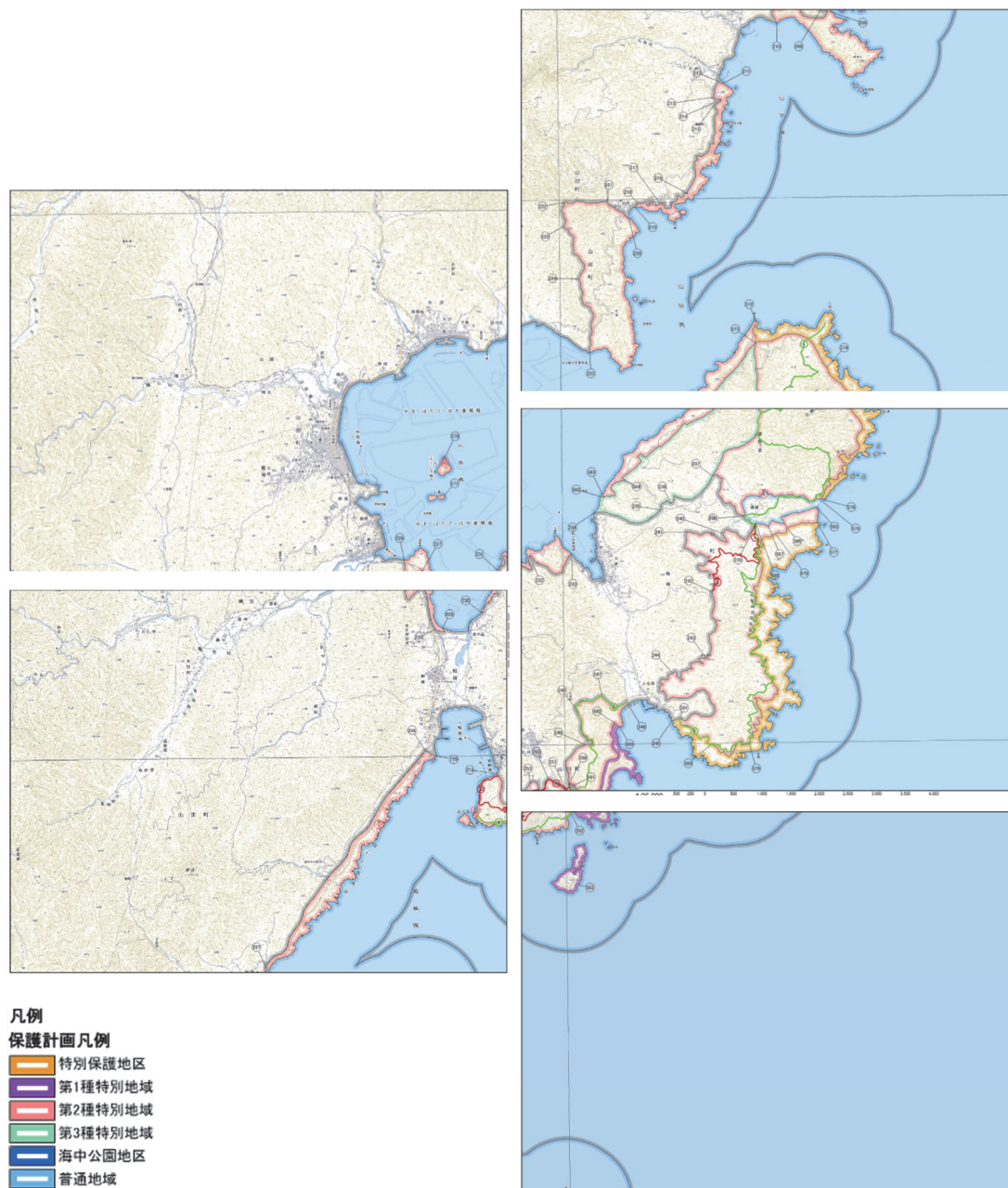
また、豊かな漁業資源に恵まれており、波が静かな山田湾と船越湾は好漁場・漁港となっている。かき、イカ、アワビ、ウニ、ホタテ、ワカメ、サケ等を収穫する水産業が盛んである。山田湾に広がる養殖筏の風景は山田町のシンボルであり、三陸らしい地域景観である(図 3-3)。

図 3-1 山田町の位置



資料：山田町観光協会 WEB サイト、山田町観光ガイドより作成

図 3-2 陸中海岸国立公園の保護計画(地種区分・山田町周辺)



資料：環境省の国立公園 WEB サイト公園区域図より転載

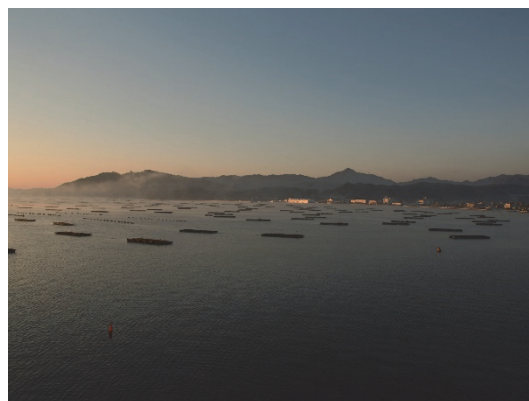
(凡例の説明)

特別保護地区：公園の中で特にすぐれた自然景観、原始状態を保持している地区で、最も厳しく行為が規制される。**第1種特別地域**：特別保護地区に準ずる景観をもち、特別地域のうちで風致を維持する必要性が最も高い地域であって、現在の景観を極力保護することが必要な地域。**第2種特別地域**：農林漁業活動について、つとめて調整を図ることが必要な地域。規制される行為については許可制。**第3種特別地域**：特別地域の中では風致を維持する必要性が比較的低い地域であって、通常の農林漁業活動については規制のかからない地域。**海域公園地区**：熱帯魚、さんご、海藻等の動植物によって特徴づけられる優れた海中の景観に加え、干潟、岩礁等の地形や、海鳥等の野生動物によって特徴づけられる優れた海上の景観を維持するための地区。**普通地域**：特別地域や海域公園地区に含まれない地域で、風景の保護を図る地域。特別地域や海域公園地区と公園区域外との緩衝地域（バッファゾーン）。

図 3-3 山田町の主な自然景観⁷



大島（オランダ島）



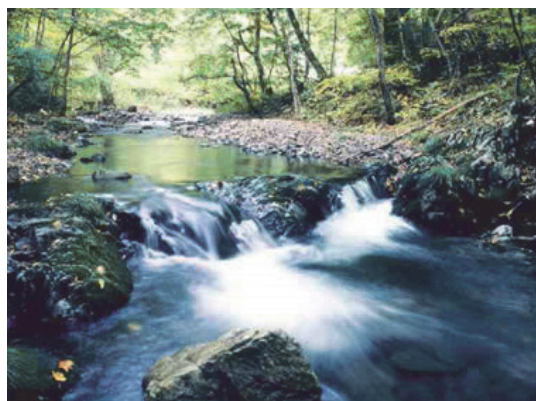
山田湾



四十八坂



赤平金剛



豊間根川源流



荒神海水浴場

⁷ 四十八坂、赤平金剛、豊間根側源流、荒神海水浴場の写真は山田町観光協会 WEB サイトより転載。オランダ島、山田湾の写真は（公財）日本交通公社が撮影。

② 気候

気温は8月が最も暖かく、2月が最も寒い。降水量は9月が最も多く、2月が最も少ない。海流（親潮、黒潮）の影響を受け、県内陸部と比較して冬期は暖かく夏期は涼しい。

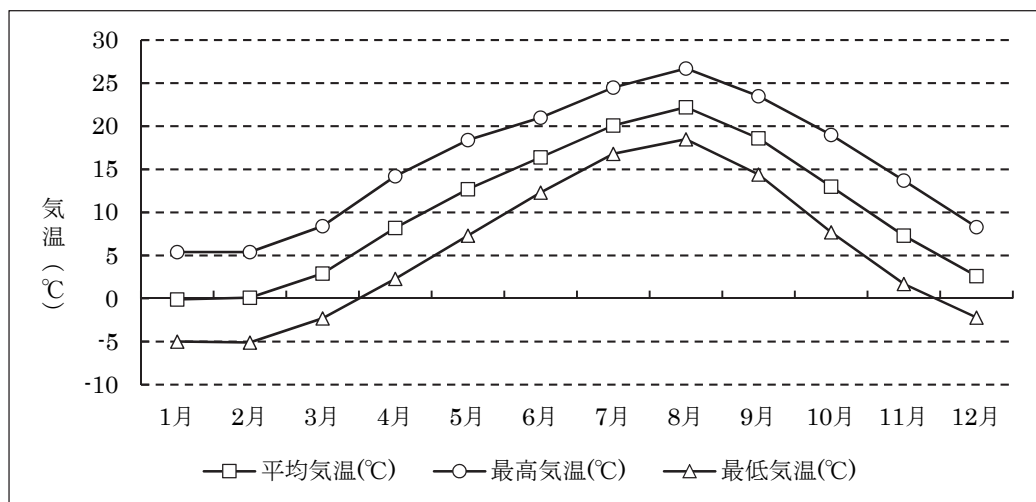
夏期はやませ（山瀬）と呼ばれる冷涼・湿潤な風の影響で急激に気温、見通しが低下することがある。年間平均気温 10.3℃、年間平均降水量 1,513mm である（表 3-1、図 3-4）。

表 3-1 山田町の気象(1981 年～2010 年の平均値)

	降水量 (mm)	平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	日照時間 (時間)
1 月	61.1	-0.1	5.4	-5	150
2 月	60.6	0.1	5.4	-5.1	145.7
3 月	96.4	2.9	8.4	-2.3	170.3
4 月	116.7	8.2	14.2	2.3	191.4
5 月	121.7	12.7	18.4	7.3	194.6
6 月	146.1	16.4	21	12.3	166
7 月	186.1	20.1	24.5	16.8	150.5
8 月	195.3	22.2	26.7	18.5	168.5
9 月	218.3	18.6	23.5	14.4	126.1
10 月	151.5	13	19	7.7	146.7
11 月	85.8	7.3	13.7	1.7	143.7
12 月	63.4	2.6	8.3	-2.2	137.6
年	1513.1	10.3	15.7	5.5	1888.6

資料：気象庁 WEB サイト「過去の気象データ検索」結果より作成

図 3-4 山田町の気温(1981～2010 年の平均値)



資料：気象庁 WEB サイト「過去の気象データ検索」結果より作成

③ 交通アクセス

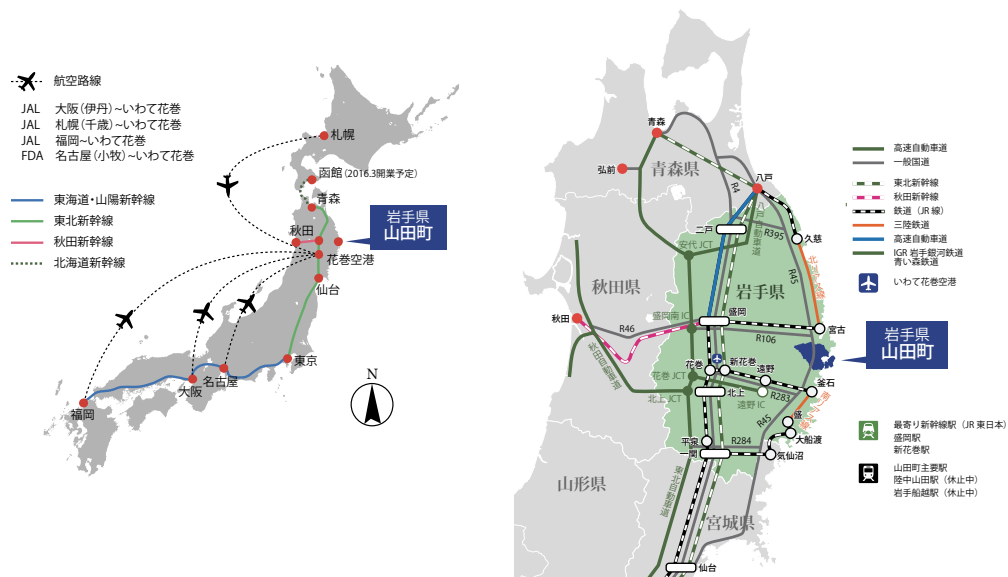
主要な交通アクセスは町を縦断する国道45号と三陸縦貫自動車道山田道路、およびJR山田線による。盛岡から自動車で2時間半、東京から東北新幹線と自動車で約5時間半程度である。町内の主要駅は陸中山田駅、岩手船越駅である（東日本大震災の影響により、現在は運行していない）（表3-2、図3-5）。

表 3-2 山田町への主な交通アクセス

交通手段	主な経路
自動車	- 盛岡南IC～山田町 約2時間半 - 遠野IC～山田町 約1時間半
バス	- 盛岡～山田（船越）〔106急行〕 約3時間 - 宮古～山田〔路線バス〕 約50分 - 釜石～山田（船越）〔路線バス〕 約1時間
JR	- 東京～盛岡〔東北新幹線〕 約2時間半 - 盛岡～宮古〔山田線〕 約2時間 - 新花巻～釜石〔釜石線〕 約1時間35分
高速バス （夜行バス）	東京～岩手（盛岡・宮古・山田／BEAM1）、東京～岩手（遠野・釜石・山田／遠野・釜石号）
飛行機	- 大阪（伊丹）～いわて花巻（JAL：約1時間半） - 札幌（千歳）～いわて花巻（JAL：約1時間） - 福岡～いわて花巻（JAL：約2時間） - 名古屋（小牧）～いわて花巻（FDA：約1時間10分）

資料：山田町観光協会 WEB サイト、山田町観光ガイドより作成

図 3-5 交通アクセス図



資料：山田町観光協会 WEB サイト、山田町観光ガイドより作成

(2) 社会(歴史、人口、産業)

① 歴史

現在の山田町は、1955 年（昭和 30 年）の町村合併により誕生した。また、同年、三陸一帯が陸中海岸国立公園（現・三陸復興国立公園）に指定され、山田町も、船越半島をはじめとする地域が国立公園地域に指定された。

山田町は、過去に、明治三陸大津波、昭和三陸大津波、チリ地震津波、東日本大震災等の大規模災害を経験している。かつて、商業捕鯨が盛んであったが、1987 年に国際捕鯨委員会（IWC）の規制により幕を閉じている（表 3-3）。

表 3-3 山田町の主な出来事

年	主な出来事
約 7000 年前頃～	当地域への居住が確認されている（遺跡）
7 世紀末～8 世紀前半	房の沢古墳群がつくられる
1643 年（寛永 20 年）	ブレスケンス号事件（オランダ船ブレスケンス号が大島に漂着）
18 世紀中頃	大浦地区でイルカ漁が始まる
1801 年（享和元年）	伊能忠敬が山田にて測量調査を実施
1847 年（弘化 4 年）	三閉伊一揆（弘化の一揆）
1853 年（嘉永 6 年）	三閉伊一揆（嘉永の一揆）
1876 年（明治 9 年）	上山田村と下山田村が合併し山田村が、織笠村と轟木村が合併し織笠村となる
1889 年（明治 22 年）	山田村と飯岡村が合併、旧山田町が誕生
1896 年（明治 29 年）	明治三陸大津波
1908 年（明治 41 年）	三陸汽船が就航
1933 年（昭和 8 年）	昭和三陸大津波
1935 年（昭和 10 年）	国鉄山田線－盛岡駅～陸中山田駅間が開通（陸中山田駅が終着）
1936 年（昭和 11 年）	国鉄山田線－織笠駅と岩手船越駅が開業
1949 年（昭和 24 年）	商業捕鯨開始
1955 年（昭和 30 年）	旧山田町と船越村、織笠村、大沢村、豊間根村が合併、山田町が誕生
	陸中海岸国立公園に指定
1960 年（昭和 35 年）	チリ地震津波
1966 年（昭和 41 年）	国民宿舎タブの木荘が開業
1986 年（昭和 61 年）	船越家族旅行村が開業
1987 年（昭和 62 年）	IWC 規制により捕鯨に幕
1988 年（昭和 63 年）	マリンパーク山田開業
1992 年（平成 4 年）	鯨と海の科学館開業
	三陸・海の博覧会開催
1993 年（平成 5 年）	オランダ王国との文化交流を開始
1997 年（平成 9 年）	定期船おおうらが廃止
1999 年（平成 11 年）	道の駅やまだ開業
	マリンパーク山田閉業
2000 年（平成 12 年）	オランダのザイスト市と友好都市提携を締結
2002 年（平成 14 年）	三陸縦貫自動車道山田道路開通、山田南 IC と山田 IC が開業。
2009 年（平成 21 年）	かき小屋開業
2011 年（平成 23 年）	東日本大震災（3 月）
	復興かき小屋開業（10 月）
2012 年（平成 24 年）	船越家族旅行村営業再開（4 月）
2013 年（平成 25 年）	やまだ観光物産館とっと開業（4 月）

資料：山田町政要覧、鯨と海の科学館 WEB サイト、山田町 WEB サイト、新聞記事等より作成

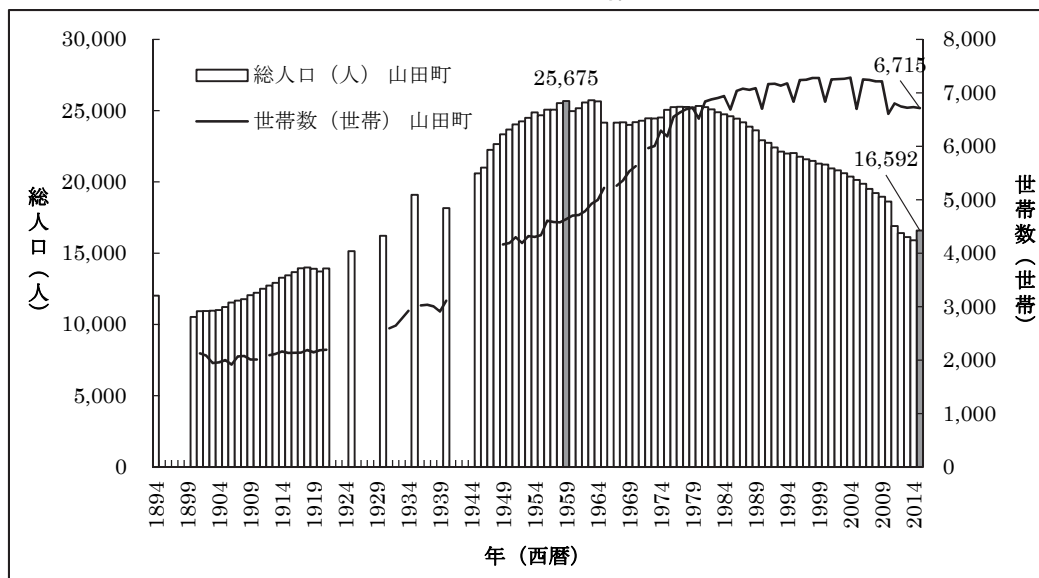
② 人口

2015 年（平成 27 年）4 月 1 日時点の山田町の人口は、総数 16,592 人（男性 8,064 人／女性 8,528 人／世帯数 6,715 世帯）である⁸（図 3-6）。統計上⁹、最も人口が多かったのは 1959 年（昭和 34 年）で 25,675 人（世帯数 4,637 世帯）であり、1980 年代から減少に転じる。その一方で世帯数は増加するが、近年は横ばいから漸減傾向にある。2011 年（平成 23 年）以降は東日本大震災の影響も大きい。

世代別の人口割合の推移（図 3-7）を見ると¹⁰、1955 年（昭和 30 年）から 2010 年（平成 22 年）にかけて、若年人口は純減（26.2%減）、高齢人口は純増傾向（26.8%増）である。生産年齢人口は、1990 年（平成 2 年）まで増加した後、減少に転じた。1955 年（昭和 30 年）と比較して 2010 年（平成 22 年）は 0.6%減少である。

平成 26 年の年齢別人口構成（図 3-8）を見ると¹¹、15-19 歳が 855 人であるが、20-24 歳で 412 人に急減する。その後 60～64 歳の 1,386 人を頂点としたピラミッド構造となっている。

図 3-6 山田町の人口推移



資料：山田町 WEB サイトおよび岩手県人口移動報告年報第 4 表市町村別人口より作成¹²

⁸ 山田町 WEB サイトより。

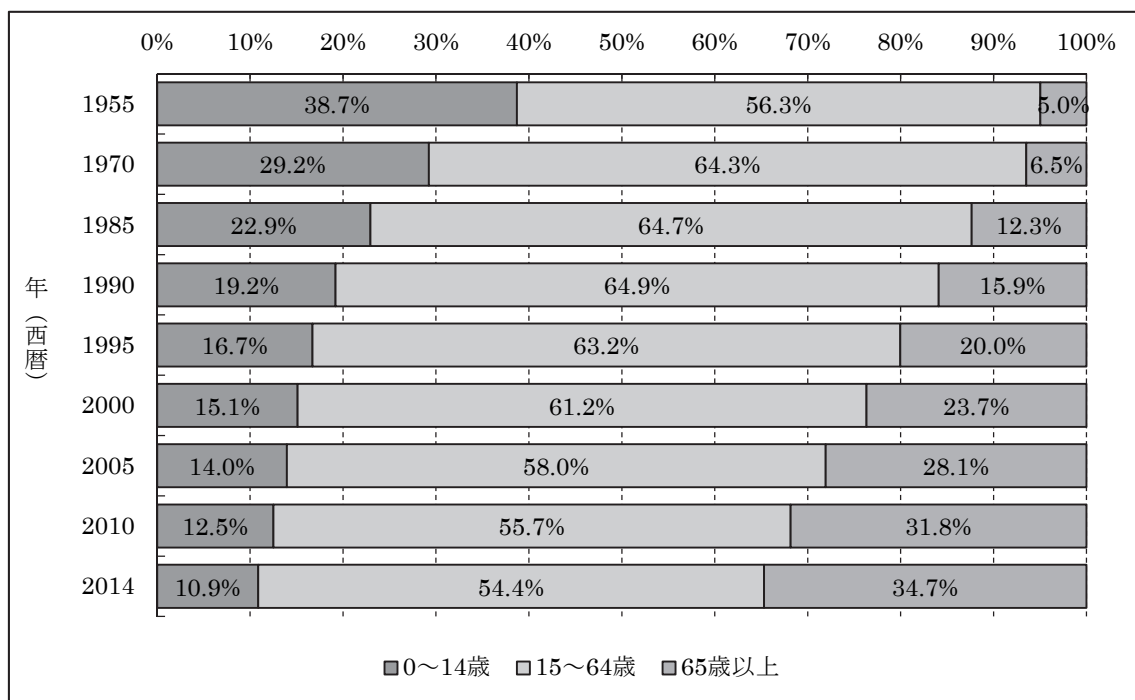
⁹ 岩手県人口移動報告年報 第 4 表 市町村別人口より作成。市町村合併以前の数値は該当町村のデータを加算。空欄は統計上の欠損値。

¹⁰ 国勢調査および岩手県人口移動報告年報 第 8-1 表 年齢別（3 区分）人口、割合 男女計—市町村別より作成。

¹¹ 岩手の長期時系列データ（人口）第 7-1 表 市町村別年齢別人口（5 歳階級）より作成。

¹² 市町村合併以前の数値は該当町村のデータを加算。空欄は統計上の欠損値。

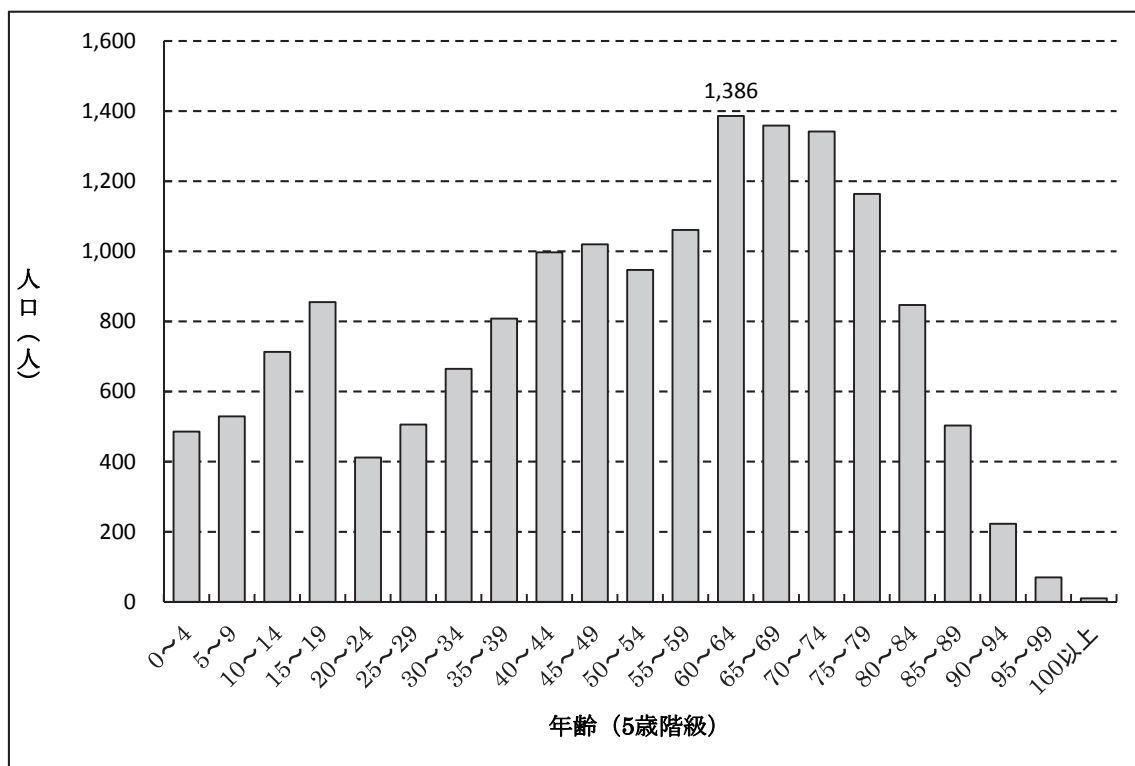
図 3-7 山田町の世代別の人口割合の推移



資料：国勢調査および岩手県人口移動報告年報

第 8-1 表 年齢別（3 区分）人口、割合 男女計—市町村別より作成

図 3-8 山田町の年齢別人口構成(平成 26 年)



資料：岩手の長期時系列データ（人口）第 7-1 表 市町村別年齢別人口（5 歳階級）より作成

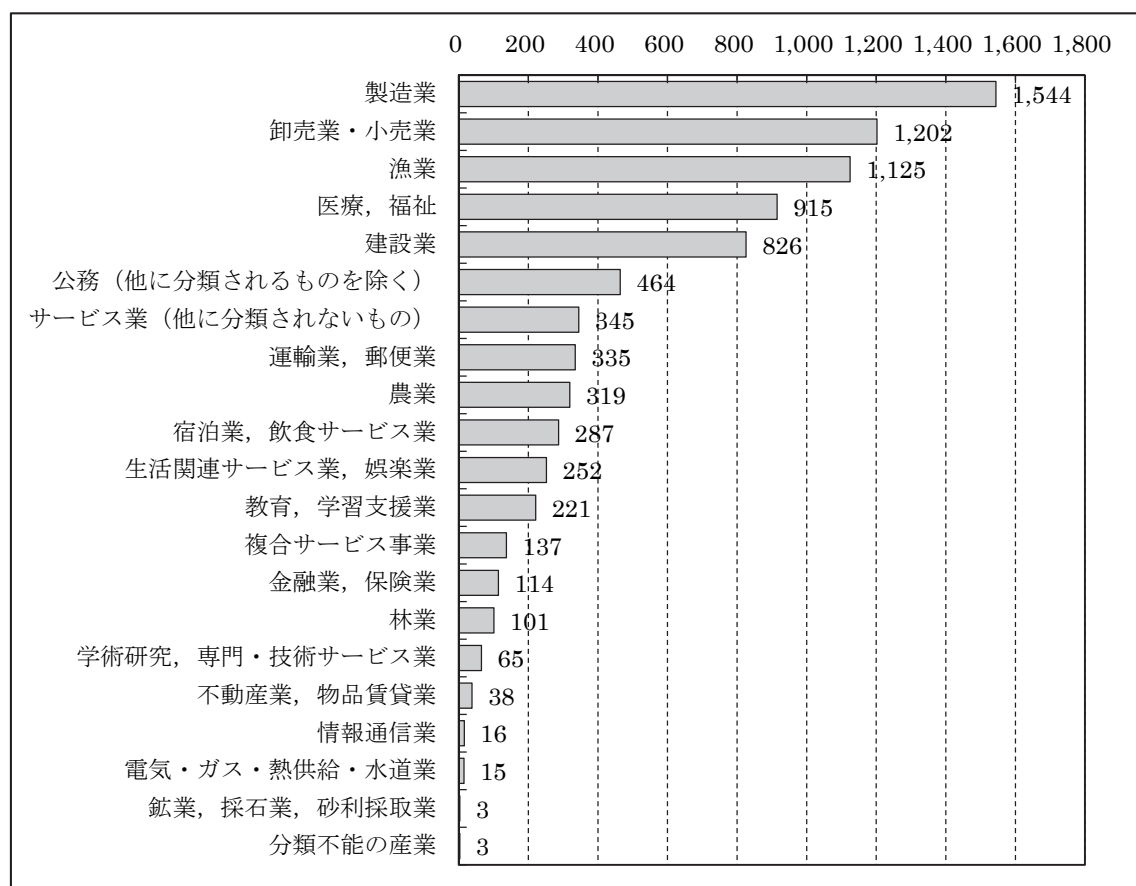
③ 産業

山田町の産業別就業者数（図 3-9）を見ると、最も就業者数が多いのが製造業、次いで卸売業・小売業、漁業の順となっている。これらの中で、山田町の産業を特徴づけている漁業を見ると、漁業種類別生産額（図 3-10）では、海面漁業¹³が生産額全体の約 6 割、浅海養殖業¹⁴が約 3 割弱を占めており、海面漁業の生産額の約 7 割が定置網、浅海養殖業の約 6 割強がかき養殖が占めている。

漁業種類別生産額の推移（資料：山田町 主要水産物生産概要より作成

図 3-11）、主要養殖業の生産状況（表 3-4）を見ると、東日本大震災の影響で大きく生産額を減じており、現在も復旧途上である。

図 3-9 山田町の産業別就業者数

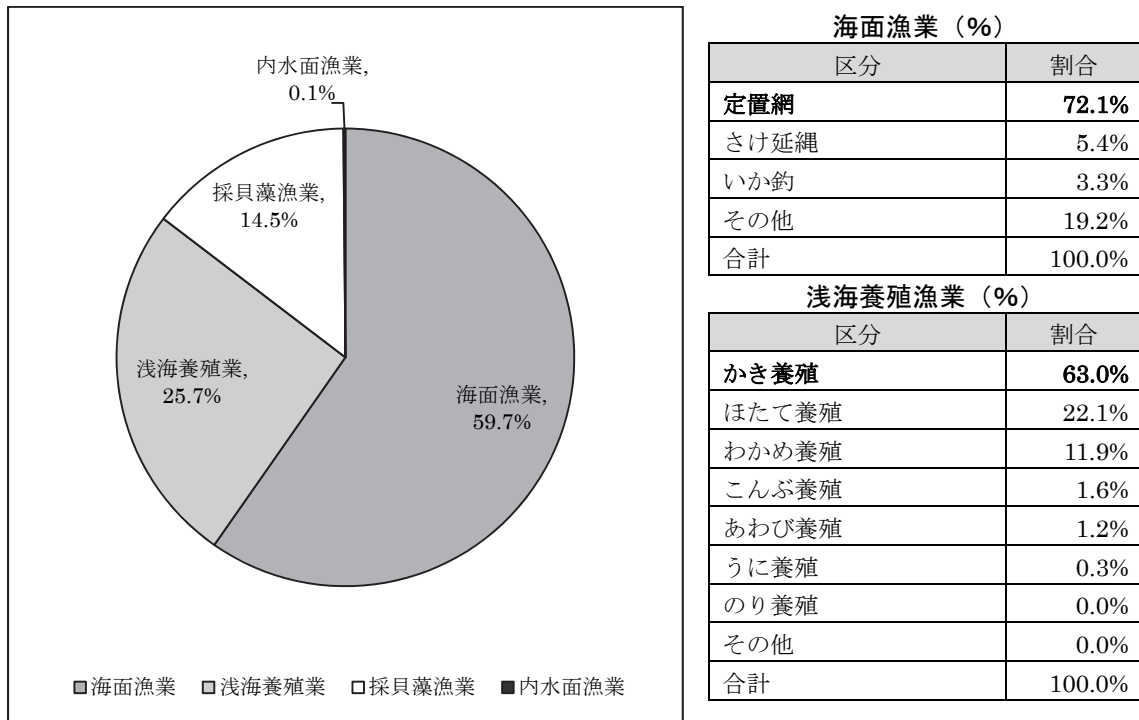


資料：平成 22 年国勢調査 第 6-2 表 産業（大分類）、年齢（5 歳階級）、男女別 15 歳以上就業者数および平均年齢（雇用者一特掲）—全国、都道府県、市町村より作成

¹³ 内訳は、いか釣り、さけ延縄、定置（組合自営、生産組合）、その他。

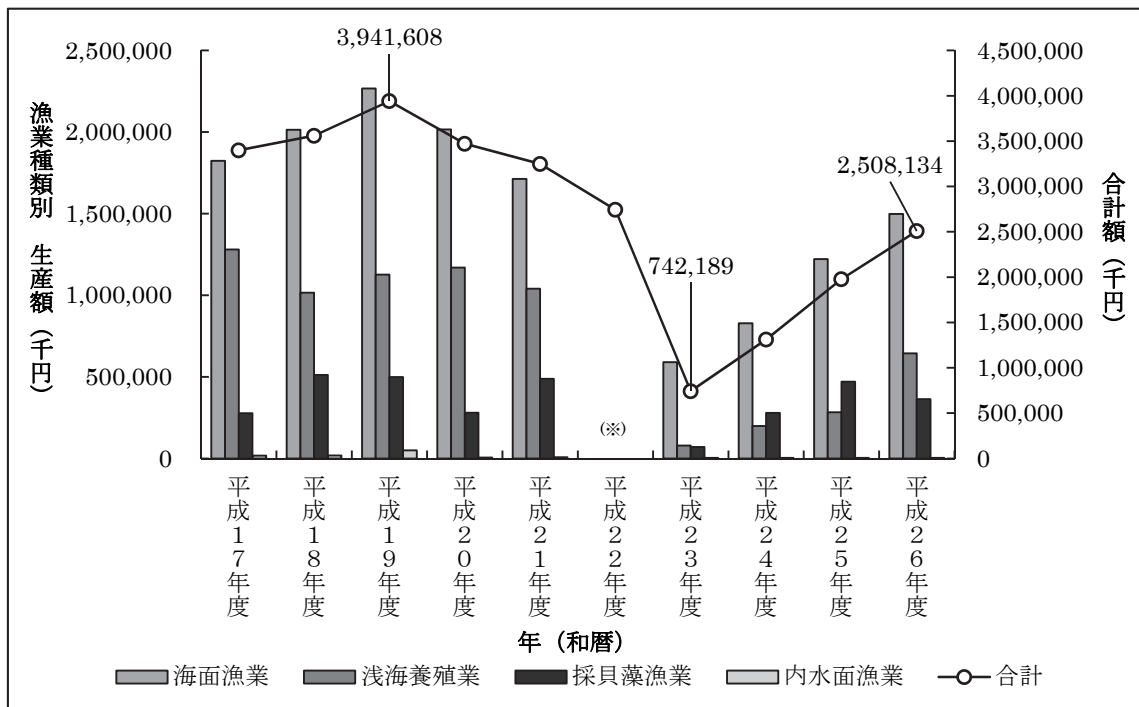
¹⁴ 内訳は、かき養殖（剥身かき、殻付きかき、垂下かき、籠売かき）、ほたて養殖、わかめ養殖（生わかめ、塩蔵わかめ）、こんぶ養殖（干しこんぶ、塩蔵こんぶ）、のり養殖、あわび養殖、うに養殖、その他。

図 3-10 漁業種類別生産額(平成 26 年度)



資料：山田町 主要水産物生産概要より作成

図 3-11 漁業種類別生産額の推移(平成 17～26 年度)

資料：山田町 主要水産物生産概要の暦年データより作成¹⁵¹⁵ 平成 22 年度の生産額内訳は、東日本大震災により関係書類が流出したため不明

3. 山田町の現状と課題

表 3-4 山田町の主要養殖業の生産状況(平成 15～25 年度)

年度	養殖ホタテ		養殖カキ					養殖ワカメ	
			殻付き		鮮・生食用		合計		
	養殖ホタテ数量(t)	養殖ホタテ金額(千円)	殻付き養殖カキ数量(千粒)	殻付き養殖カキ金額(千円)	養殖カキ(鮮・生食用)数量(t)	養殖カキ(鮮・生食用)金額(千円)	金額(千円)	養殖ワカメ数量(t)	養殖ワカメ金額(千円)
平成 15 年度	768	188,193	23,886	1,270,257	28	28,730	1,298,987	1,001	113,933
平成 16 年度	605	192,617	20,668	1,108,237	30	27,696	1,135,933	1,155	106,375
平成 17 年度	546	180,249	17,294	878,033	21	21,553	899,586	1,092	107,054
平成 18 年度	832	218,221	11,197	576,510	20	17,218	593,728	1,455	132,332
平成 19 年度	1,016	280,784	13,525	639,889	34	30,192	670,081	751	86,898
平成 20 年度	1,084	243,600	12,916	648,344	47	38,149	686,493	1,009	175,000
平成 21 年度	863	229,395	12,528	625,872	28	27,038	652,910	1,006	123,576
平成 22 年度	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
平成 23 年度	0	624	140	8,182	24	50,482	58,664	141	19,572
平成 24 年度	337	137,004	311	16,637	4	6,490	23,126	287	38,791
平成 25 年度	442	170,894	498	28,737	16	23,839	52,577	526	55,460
平成 26 年度	663	262,183	3,400	278,015	43	61,477	339,492	426	40,229

資料：山田町 主要水産物生産概要の暦年データより作成¹⁶

¹⁶ 養殖ワカメ（塩蔵ワカメ分）は、数量を 3 倍（生ワカメ換算）で計算。平成 22 年度は東日本大震災により、関係書類が流出したため不明

3-2. 地域資源と観光の現況

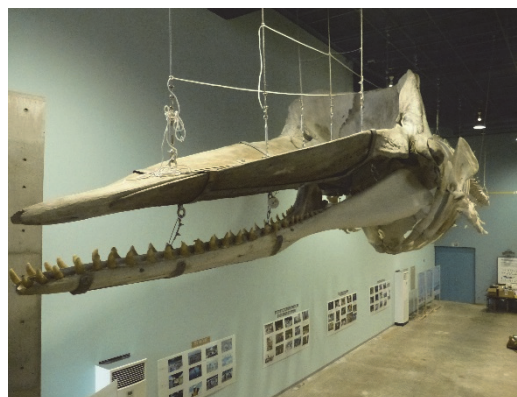
(1) 観光の概況

山田湾、オランダ島、大釜崎、赤平金剛等リアス式海岸の自然美等を活かした誘客に加えて、「鯨と海の科学館」や「船越家族旅行村」、「道の駅やまだ」「復興かき小屋」「観光物産館とっと」等の観光施設がある（図 3-12）。

また、山田町観光協会を中心に、地元の漁業や海の自然美を活かしたあさりまつり、山田の鮭まつり等のイベントのほか、海上漁業体験・海岸美探勝、陸上漁業体験、定置網体験、シーカヤック体験教室等、季節毎の特色を活かした体験を提供してきた。また、鯨と海の科学館でのムラサキガイのアクセサリーづくりや海藻しおりづくり、（有）木村商店でのいか徳利づくり等、気軽に参加できる体験プログラムも提供されてきた（表 3-5、図 3-13、図 3-14）。

東日本大震災により観光関係の施設の全壊・流失等の被害を受け、多くの体験企画は提供できない状況にあるが、関係者の努力により、復興が進められている。

図 3-12 山田町の主要な観光拠点等¹⁷



鯨と海の科学館



道の駅やまだ（ふれあいパーク山田）



船越家族旅行村



復興かき小屋



観光物産館とっと

¹⁷ 鯨と海の科学館（左）、道の駅やまだ（ふれあいパークやまだ）、船越家族旅行村の写真は、山田町観光協会 WEB サイトより転載。鯨と海の科学館（右）、復興かき小屋、観光物産館とっとの写真は、（公財）日本交通公社が撮影。

表 3-5 山田町の主な地域資源(2016.3 現在)

名称	分類	説明
十二神山	山岳、峠	宮古市と山田町の境界の重茂半島の第二峰。標高 731m。ブナ林。複数の山頂が連なる。各頂に神様（十二武神）が祀られており、それぞれに名前がある。航空自衛隊の基地（山田分屯基地）の中に山頂、一等三角点がある。
鯨山	山岳、峠	標高 610m。特徴的な山容から三陸沖の船が目印として使用していた。南部に小鯨山があり対をなしている。鯨山と小鯨山の鞍部に「鯨山神社」が祀られている。鯨にまつわる伝説が幾つかある。
多々羅山	山岳、峠	かつて鉄が産出されたことに由来するといわれている。
霞露ヶ岳	山岳、峠	標高 508.5m。山頂まで約 2 時間。登山道のある本州最東端の山。イヌシデ林。山頂に奥の宮があり大岩が祀られる。山田湾や対岸の十二神山が望める。名称は遠くから霞んで見える情景に由来する、アイヌ語に起源がある等、諸説がある。
四十八坂	山岳、峠	かつて交通の難所といわれ、曲がりくねった坂が続いた場所。現在は展望台があり、タブの大島、船越半島集落、太平洋を一望できるほか、夏の夜にはイカ漁の漁火が見える。※山田八景。
山田湾	海、湾 海岸	海の十和田湖と称されるほど波穏やかな湾。湾内には養殖筏が広がり、かきやホタテが養殖されている漁業風景が特徴。霞露ヶ岳山頂を視点場として景観が楽しめる。最浅部で 20m 程度、最深部で 40m 程度（湾の中心より出口寄りにある）。透明度が高く（20m 以上）、かき棚の下まで見渡せる。特に、オランダ島（大島）付近は海底の白砂がきれい風がないときは肉眼で見える。※山田八景。
漣磯海岸	海、湾 海岸	船越半島の東側にあるビュースポット。断崖絶壁に囲まれた小石の海岸。太平洋の荒波が打ち寄せる迫力満点の眺めを堪能できる。
関口不動尊溪流	滝、溪流	関口不動尊の奥宮まで続く川。静寂に包まれる。※山田八景。
豊間根川源流	滝、溪流	オソノエラ沢から脈々と流れる清流は源流と合流し豊間根川となる。沢の奥には鍾乳洞がある。※山田八景。
滝（名称不詳）	滝、溪流	船越半島の外洋に面した岸壁に海に向かって、幾つかの滝がある。陸上からの鑑賞は困難。また、周辺には岩場が多く海上から到達することも難しい。
明神崎	島、岬 半島、崖	山田湾口に位置し、岬の先には、赤い鳥居が建てられ、岩にはしめ縄が飾られている。沖へ出漁する船はここで安全祈願し出漁する。曳舟祭りに、観光船による鑑賞の対象。南部アカマツの群生が見られる。※山田八景。
オランダ島（大島）	島、岬 半島、崖	オランダ船ブレスケンス号が食糧と水を補給するためこの地に碇を下したことから名付けられた。周囲約 900m、面積 26,960m ² の東北唯一の無人島海水浴場。海水浴のために渡航する「島わたり」は、山田町だけでなく他地域からの子供も楽しみにしていた。7～8 月で約 8 千人の利用があった。
大釜崎	島、岬 半島、崖	船越半島の東南に位置する、高さ 150m の垂直に切り立った断崖。大きな岩礁に挟まれた水路があることから「海のクレバス」と呼ばれる。※山田八景。

3. 山田町の現状と課題

名称	分類	説明
船越半島	島、岬 半島、崖	海岸部の多くが三陸復興国立公園の保護地域に指定されている。南部アカマツの群生や、ニッコウキスゲ等が見られる。荒神社から小谷島地区に出て、自然歩道を通り、漣磯海岸から霞露ヶ岳へ至る計 20 数 km のルートがある。
タブの大島	島、岬 半島、崖	船越半島の南端から南東海上 800m の所にある周囲 2km ほどの無人島。亜熱帯植物のタブノキの自生地、北限。四十八坂から展望できる。※山田八景。
垂水	島、岬 半島、崖	岸壁から海に向けて水がしみ出している。海上アプローチしかない。漁師が時々水を飲んでいて、昔は若い漁師がわざと海に投げられて瓶を持たされて水を汲んでこいと言われたこともある。
赤平金剛	島、岬 半島、崖	船越半島の霞露ヶ岳 (508m) の中腹が一気に落ち込んできた大絶壁。高さ 300m の赤肌が露出。中部陸中海岸随一の景観を誇る海食崖。※山田八景。
アカマツ	動植物	白木でやわらかく狂いが少ないことで材木として重宝。船越半島に群生。
ハマナス	動植物	町の花。海岸砂地に生える落葉低木。6～7 月に開花。香りがよい。漣磯海岸、浦の浜等に分布。
ニッコウキスゲ	動植物	漣磯海岸等の海岸部に分布。
臥竜梅	動植物	樹齢約 300 年のウメ。地を這うような姿から名付けられた。岩手県ではただ一つの臥竜梅。昭和 47 年に県の天然記念物に指定された。
スギ	動植物	町の木。常緑高木。建築材料として重要。山田町内にも多くの造林がある。
ウミネコ	動植物	町の鳥。山田町で普通に見られるカモメ類。
山田八幡宮	寺社仏閣 郷土芸能 伝統行事	源義経北行伝説の場所。義経の腹心で、義経の身代わりとして討死にした佐藤継信の長男が山田に居住しており、北行中であつた義経が継信の守り本尊であつた「観音像」を託した。この観音像がご神体として守られている。山田八幡宮神幸祭 (9 月開催) は、山田八幡宮の歴史と伝統の祭りで、山田最大の祭り。町を神輿が練り歩き、八幡大神楽や八幡鹿舞、そして東北を代表する郷土芸能「山田境田虎舞 (山田境田虎舞保存会)」が奉納される。(山田八幡宮節分祭 2 月開催)
大杉神社	寺社仏閣 郷土芸能 伝統行事	大杉神社神幸祭 (9 月開催) は、前日に行われる山田八幡宮神幸祭と並び、山田を代表する祭り。漁の神「網場大杉 (アンバさま)」を奉った大杉神社の祭り。「おしおごり」と呼ばれる神輿の海上渡御がある。虎が舞い (境田虎舞)、囃子が鳴り響く中、漁船は大漁旗を掲げ、神輿を担いだ男達が海に入る。
荒神社	寺社仏閣 伝統行事	荒神社祭典 (7 月開催) は、荒神社で古くから行われている祭典。神輿が船に乗せられ、船で引く等、特徴的な祭り。閉伊頼基霊廟は、荒神社地内にある霊廟。田の浜大明神と称され、荒神社に合祀されたと伝えられている。
霞露ヶ岳神社	寺社仏閣 伝統行事	霞露ヶ岳神社例大祭神輿渡御 (9 月開催) は、3 年に 1 度開催。

名称	分類	説明
魚賀波間神社	寺社仏閣 伝統行事	魚賀波間神社例大祭（8月開催）
関口不動尊	寺社仏閣 郷土芸能	関口不動尊例大祭（7月開催）。不動ヶ岩に祀られる不動明王を祭神とした火の神信仰で知られ、神楽、剣舞が伝わる。
秀全堂	寺社仏閣	船越半島・大浦地区にあり、秀全禅師が入定した場所とされる。入定された7月30日（旧暦6月12日）の前夜に「御逮夜」と呼ばれる供養行事が行われている。
大沢の弁天様	寺社仏閣	大沢地区の海岸の岩礁にある弁財天。
絵入道標	史跡	字が読めない人のために絵で隣町の大槌と船越を表現した道標。
山田の郷土芸能	郷土芸能	山田町では、境田虎舞、八幡鹿舞、八幡大神楽、山田大神楽、関口不動尊神楽、関口剣舞、北浜手踊り、八木節他、多くの郷土芸能が伝承されている。
なごみ	伝統行事	1月。小正月行事。なごみと言われる鬼が家々をまわる。
オクズ	伝承・信仰	蛇が置いていく兜、または、モズのはやにえを「オクズ」と呼び、山で見つけると、それを小枝のままこっそりと持ってきてツノ箱に入れ、誰も分からないように船に積み、漁をしたという。ツノ箱とはカツオ漁の擬餌針を入れる箱で、他人に渡すことのない、なかば神聖な箱である ¹⁸ 。大漁祈願。
オシラサマ	伝承・信仰	家の神であり、一般には蚕の神、農業の神、馬の神とされる。桑の木でつくった1尺（30センチメートル）程度の棒の先に男女の顔や馬の顔を書いたり彫ったりしたものに、布きれでつくった衣を多数重ねて着せる。
三陸山田カキまつり	地域イベント	4月。山田の魅力発信実行委員会主催、山田魚市場特設会場にて開催。漁業者が出店し、かき、ホタテ、ワカメ、ホヤ、かきご飯、かき汁等を販売する。
さくらまつり	地域イベント	4月。船越家族旅行村のオートキャンプ場付近を会場に、桜の開花時期に開催される春のイベント。縁日やステージイベントが行われる。
山田アサリまつり	地域イベント	5月。町と観光協会主催の行事。織笠川河口。毎年4000人以上の人出で、かき、ホタテ、ホヤ等の販売もあった。現在は津波により干潟が消失したため開催されていない。
オランダ島まつり &ビーチフェスタ	地域イベント	7月。震災前まで行われていた海のイベント。島までの無料ご回船が運航され、マリンスポーツや海水浴客で賑わった。
花火大会	地域イベント	8月。商工会青年部主催のイベント。
山田の秋祭り	地域イベント	9月。陸中山田駅北側広場に特設舞台を設置。町内外の郷土芸能や踊りのほか、八幡宮と大杉神社の神輿も立ち寄る。期間中は、露店も出店する。
山田の幸味わい祭り	地域イベント	10月。地元のかき・ホタテ・さんま等の海産物や農産物等を味わうことのできるイベント。祝いまき、バーベキューコーナー、ステージイベント等。かき小屋広場が会場。
山田の鮭まつり	地域イベント	12月。鮭のつかみ取りが目玉。抽選会や新巻鮭・イクラの販売等も行われる。

¹⁸ 川島秀一（2003）『漁撈伝承』、法政大学出版局より。

3. 山田町の現状と課題

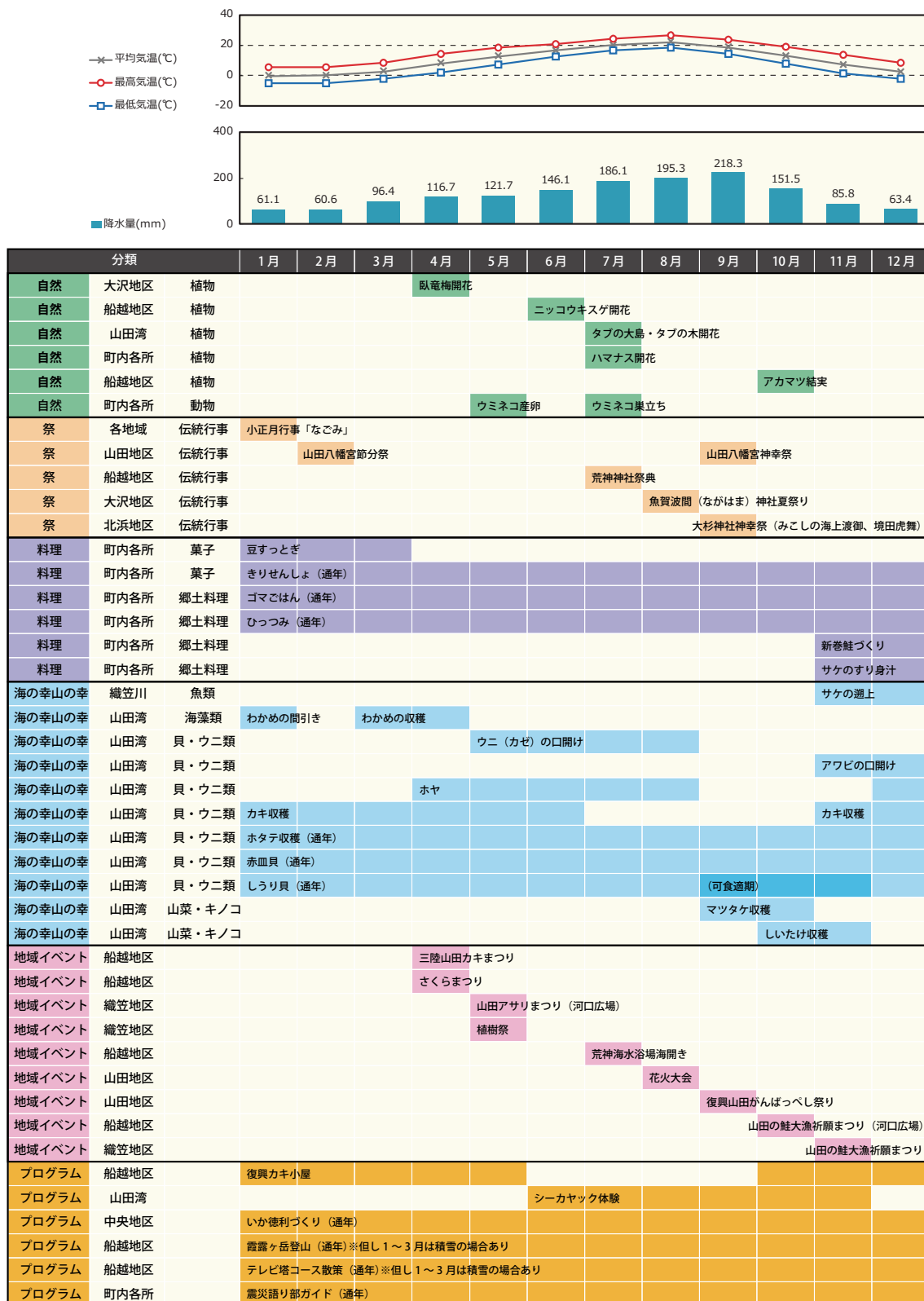
名称	分類	説明
町民歌	その他	山田町の町民歌。作詞：佐々木健一、作曲：木村悌郎。昭和 50 年 11 月 1 日制定。山田町条例（第 1 類通規 第 1 章町制）に掲載。
漁撈歌	その他	漁で歌われる歌。録音したテープが残っている。
道の駅やまだ（ふれあいパーク山田）	拠点施設	国道 45 号線沿いにあり、山田の特産品を豊富に取り扱っている。
やまだ観光物産館とっと	拠点施設	2013 年 4 月にオープンした新しい観光拠点。ワカメのしゃぶしゃぶ体験、山田湾ベーカリー、薫製ピザ作り体験講座等が話題。
鯨と海の科学館	拠点施設	商業捕鯨禁止となる昭和 62 年まで捕鯨をしていた山田の捕鯨の歴史や、世界最大級のクジラの実物骨格標本が展示されている。
復興かき小屋	拠点施設	2011 年 10 月に浦の浜で再開した復興かき小屋。殻付きかきの蒸し焼きが 40 分食べ放題。
B&G 山田海洋センター	拠点施設	艇庫は山田湾に面し、海洋スポーツの拠点になる。体育館は船越家族旅行村に隣接している。
陸中海岸青少年の家	拠点施設	野外活動での宿泊、親子の体験、高齢者向けのスポーツ大会等、様々な事業を展開している。
船越家族旅行村	拠点施設	パークゴルフ、アスレチック公園、桜、チューリップ、水仙、ジャブジャブプールのほか、通年利用できるケビンハウス、オートキャンプ場等がある。
すつとぎ	食	すつとぎ（しとぎ、豆しとぎ）。豆を原料とするお菓子。
山田せんべい	食	米粉、胡麻を主原料にし、独特の製法による柔らかい食感のせんべい。
わかめラーメン・干し麺（あかもく）	食	県産小麦、三陸わかめを練り込んだ地産地消わかめラーメン。山田産海藻「あかもく」を練り込んだ干し麺（あかもく）うどんも人気。
わかめ・昆布等の海藻	海産物	親潮と黒潮が流れ込む三陸海岸で育ったわかめ、昆布。
ホタテ	海産物	山田湾で養殖されたホタテ。
かき	海産物	山田湾で養殖されたかき。殻付きかき生産量日本一。
ウニ・アワビ	海産物	山田湾で採れたアワビ、ウニ。
サケ	海産物	秋から冬にかけて織笠川に遡上。毎年 12 月に山田町観光協会の主催のつかみ取りイベントが開催される。平成 25 年 1 月には NPO の支援により新巻鮭づくりやふ化場見学を組み込んだ体験プログラムの試行が行われた。
海上漁業体験&海岸美探勝	体験プログラム	漁船に乗船し、かき・ホタテ養殖筏の見学や、山田湾、船越半島の秘境を巡る体験。受け入れ先はマリン・ツーリズム山田。
シーカヤック体験教室	体験プログラム	シーカヤックに乗って、三陸復興国立公園を海上からゆっくり眺める。受け入れ先は三陸 MESA。
マリン・ツーリズム	体験プログラム	山田湾周遊や養殖漁業体験のほか、オランダ島上陸も体験できる。受け入れ先はマリン・ツーリズム山田。
震災語り部ガイド	体験プログラム	震災発生時の様子と復興の現状を語りながら街を案内。受け入れ先は、新生やまだ商店会協同組合。被災ガイド、語り部タクシー、語り部飲食店の 3 コースがある。

名称	分類	説明
いか徳利	体験プログラム	真いかの胴を徳利の形に成形する土産品。半乾燥したイカを成形して、徳利に仕上げる体験がある。受け入れ先は（有）木村商店。
大釜崎自然遊歩道	遊歩道	船越半島の霞露ヶ岳、大釜崎の尾根部分を結ぶ健脚者向けの21.4kmの自然歩道。陸中海岸最高峰の霞露ヶ岳からは山田湾を一望。
山田湾養殖筏の風景	風景	大島、小島や、角度によって、日光山、大沢山、霞露ヶ岳等を背景に、山田湾に浮かぶ養殖筏の風景。冬の風景も美しい。
山田魚市場の水揚げ風景	風景	サバの水揚げをはじめ、活気ある風景が見られる。
霞露ヶ岳山頂からの山田湾の景観	風景	山頂から山田湾を一望できる。絶景スポットとして知られる。

資料：山田町 WEB サイト、山田町観光協会 WEB サイト、鯨と海の科学館 WEB サイト、あの日から明日に向かって～東日本大震災山田の記録～、三陸山田漁協 WEB サイト、岩手県観光ポータルサイト、復興エコツーリズム推進モデル事業ワークショップ結果（環境省）等を基に作成



図 3-14 山田町の主な地域資源の旬(地域資源カレンダー)



資料：関係者へのヒアリング、山田町観光協会ウェブサイト等を基に作成

(2) 宿泊収容力

山田町内の主な宿泊施設としては以下が挙げられる（表 3-6）。山田町内全体の宿泊容量は総部屋数 247 室、総宿泊可能人数 665 名である。このうち、一般観光客の利用が想定されない「その他」の 2 施設を除外すると、実質的な宿泊容量は、総部屋数 162 室、総宿泊可能 386 名である。

表 3-6 山田町内の主要な宿泊施設

種別	名称	所在地	部屋数（人数）	料金・備考
民宿	嶋田 鉦泉 ニュー 嶋田 荘	豊間根	9（30） 自炊部 4（20）	1泊2食付：6,200円 素泊：4,000円、夕食付：5,600円 朝食付：4,750円
民宿	光山温泉 岳泉荘	大沢	20（25）	【新館】1泊2食付：7,200円 素泊：5,000円、朝食付：5,700円 【旧館】1泊2食付：6,500円 素泊：4,000円、朝食付：5,500円
民宿	木村屋	大沢	14（14）	1泊2食付：6,700円（素泊無）
民宿	藤丸	大沢	2（5）	1泊2食付：6,300円 素泊：3,500円、朝食付：4,500円
民宿	船宿 海太郎	大沢	6（最大収容 20）	1泊2食付：7,020円～（素泊無）
民宿	四十八坂荘	船越	6（20）	1泊2食付：6,500円 素泊：4,000円、朝食付：5,000円
民宿	乙女荘	船越	5（最大収容 13）	1泊2食付：6,300円、素泊：3,500円
ホテル	ビジネスインや まだ	船越	シングル 53 ツイン 3	【シングル】1泊2食付：8,200円、 素泊：6,700円、朝食付：7,200円 【ツイン】1泊2食付：15,000円 素泊：12,000円、朝食付：13,000円
ケビン	船越家族旅行村 （ケビンハウス）	船越	10棟 （1棟4、最大6）	4人までで10,260円（※1名毎1,050 円追加）、暖房料230円
オートキ ャンプ場	船越家族旅行村 （オートキャン プ場）	船越	26サイト （最大収容 104）	1サイト：3,240円 バイク1台：1,080円
トレーラ ーハウス	オートキャンプ 場（トレーラーハ ウス）	船越	4棟 （最大収容 16）	3人までで6,480円 （※1名毎1,050円追加）
		小計	162（386）	
その他	陸中海岸青少年 の家	船越	26（200）	中学生以上：1,640円 小学生以下：1,590円（3食・シート 代込）
その他	マンスリーイン やまだ	船越	シングル 39 ツイン 20	2週間以上連泊の男性を対象とした長 期宿泊施設（法人・団体のみ）
		総計	247（665）	

資料：山田町観光協会 WEB サイト他を基に作成（2016.2 調べ）

(3) 観光客数および宿泊客数

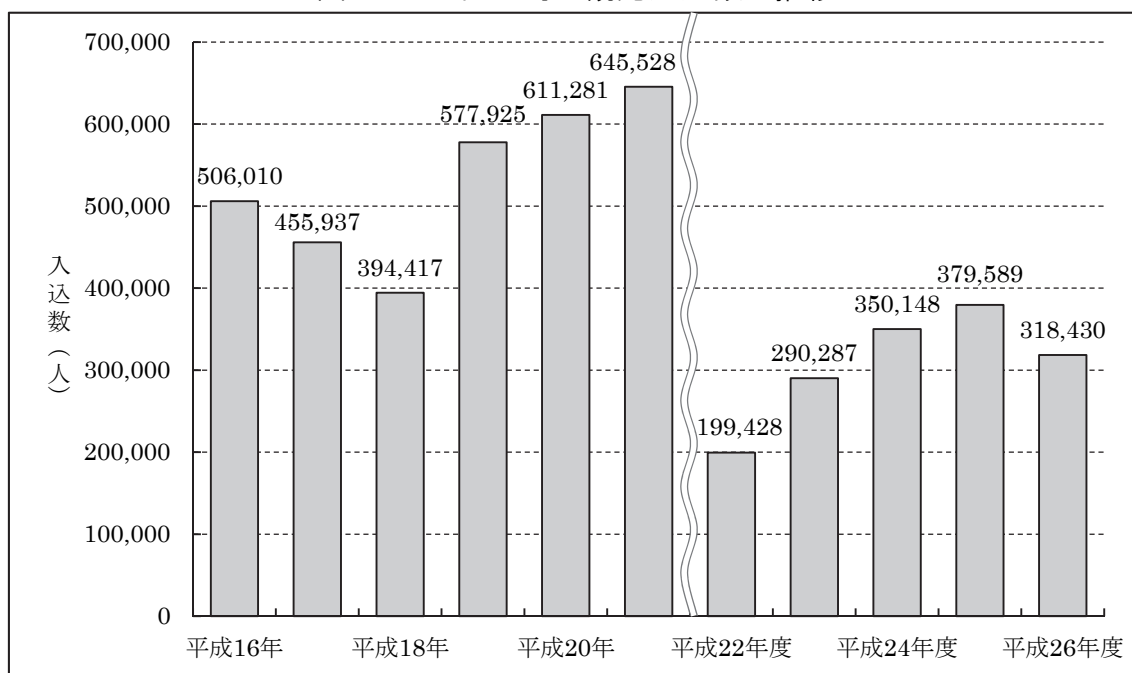
① 観光入込の推移、月別の傾向

観光入込数は、平成 19 年から平成 21 年にかけて順調に増加を続けており、延べ 64.6 万人の入込があった（図 3-15）。平成 19 年に大幅に伸びているのは、道の駅が統計に加わった影響が大きい。

平成 22 年度から統計手法を変更（延べ人数→実人数、年→年度等）しており¹⁹、平成 22 年度の実人数推計値は約 19.9 万人である。東日本大震災からの復興が始まった平成 23 年度以降、徐々に回復しており、平成 26 年度では約 31.8 万人となっている。月別に見ると、最も観光入込数が多いのは夏期であるが、冬期も一定の集客がある（図 3-16）。

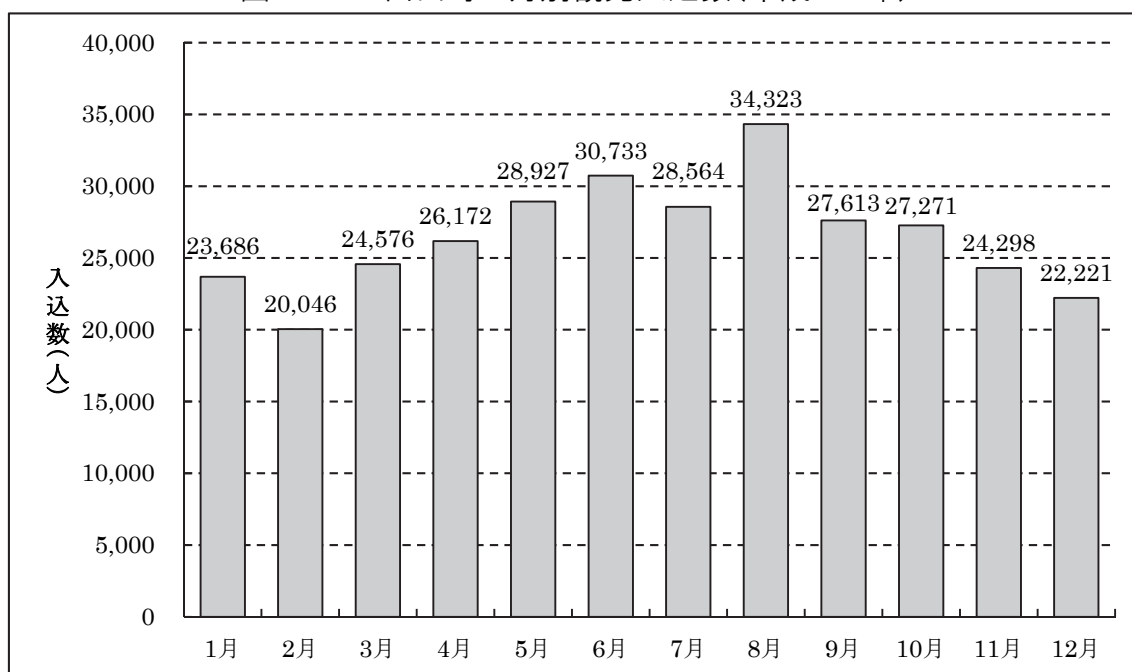
¹⁹ 平成 22 年度より岩手県は観光統計の実施方法を改定した。全国共通基準に基づき、1 万人以上の立寄地点における実人数推計値（平成 21 年度までは延べ人数）とし、調査期間も年区切りから年度区切りとなった。そのため、過去のデータとの連続性はない。

図 3-15 山田町の観光入込数の推移



資料：岩手県観光統計および山田町提供資料より作成

図 3-16 山田町の月別観光入込数(平成 26 年)

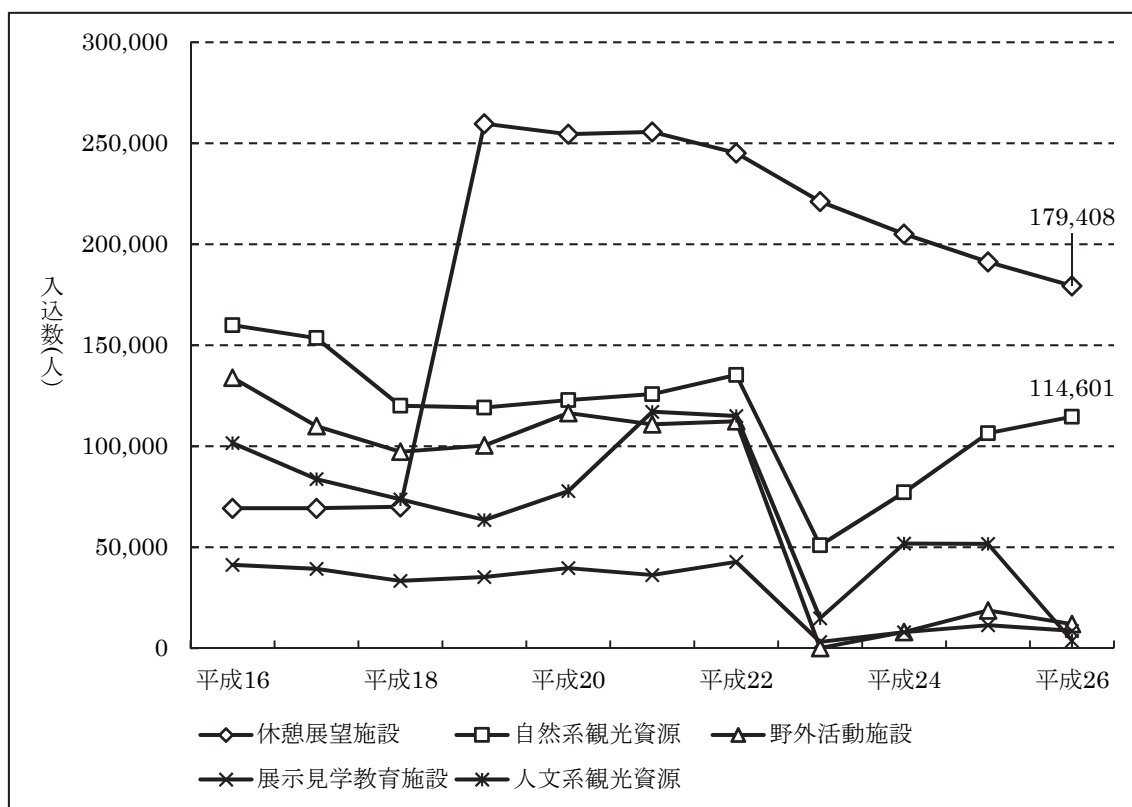


資料：岩手県観光統計および山田町提供資料より作成

② 観光資源別の傾向

観光資源別の傾向について統計上の最新データである平成26年を見ると、「道の駅やまだ」を含む休憩展望施設で17.9万人、「宿泊施設」「温泉」を含む自然系観光資源で11.5万人であり、これらで全体の92.3%を占めている（図3-17）。

図3-17 山田町の観光資源別の入込傾向



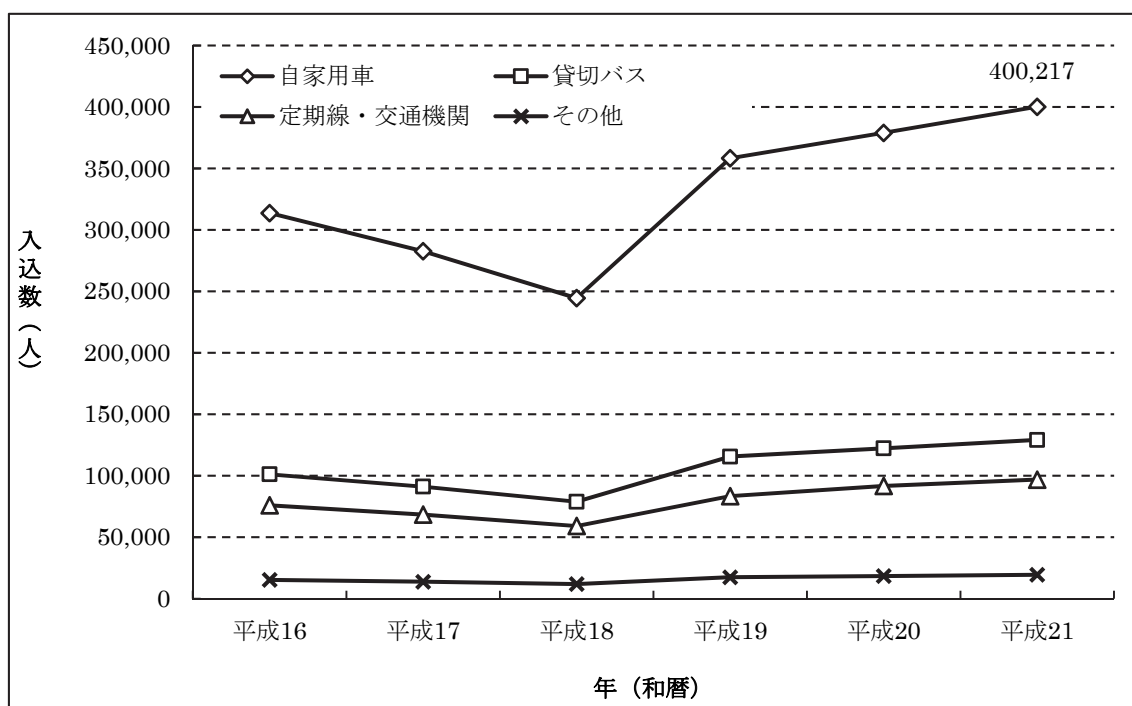
資料：岩手県観光統計および山田町提供資料より作成²⁰

²⁰ 平成23年度は、東日本大震災の影響により、社会教育施設は小学校の仮校舎として使用、公共宿泊施設およびキャンプ場はボランティアが使用したため、統計データなし

③ 交通機関別の傾向

交通機関別の傾向について統計上の最新データ²¹である平成 21 年を見ると、自家用車が 40.0 万人と最も多く、全体の 62.0%を占めている。特に平成 19 年に自家用車が前年比 147%と顕著に伸びた（図 3-18）。

図 3-18 山田町の交通機関別の入込の観光入込の傾向（平成 16～21 年）



資料：岩手県観光統計および山田町提供資料より作成

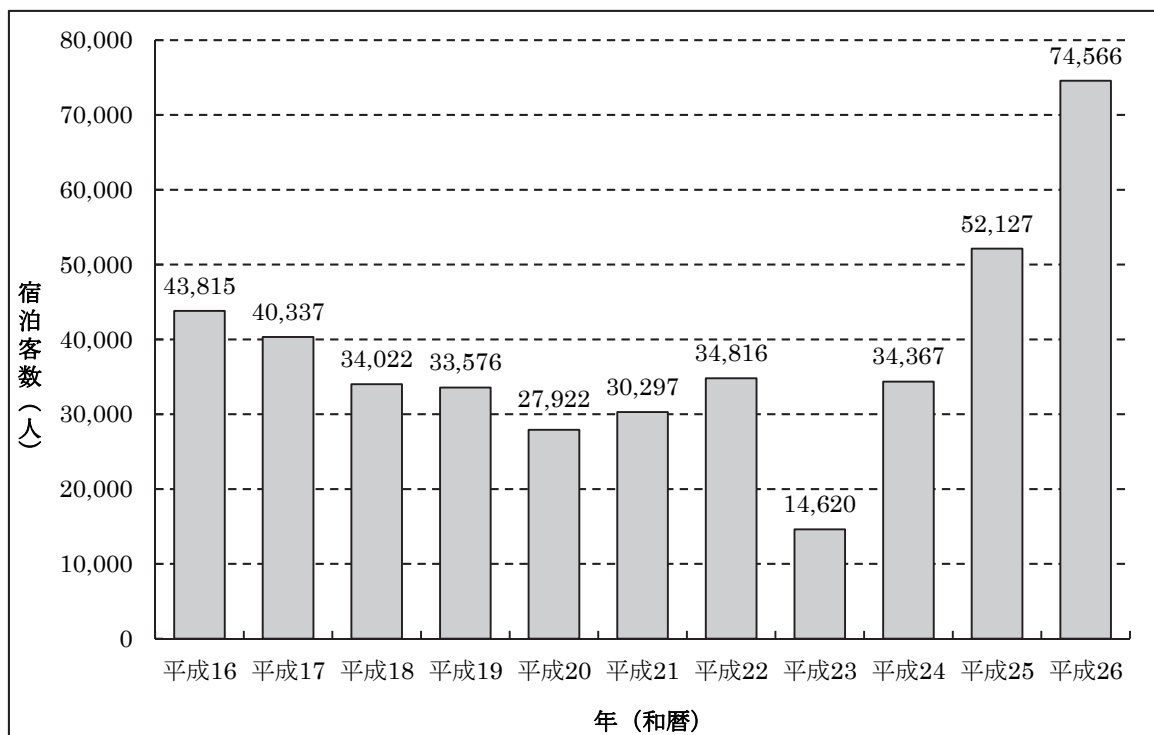
²¹ 本統計は平成 21 年以降公開されていない。

④ 宿泊客数の推移

平成 26 年の宿泊客数は約 7.5 万人であった（図 3-19）。宿泊客は、平成 16 年以降、おおむね漸減傾向であったが、東日本大震災後は、復興工事関係者による長期宿泊利用の増加により急増した。その一方で、観光シーズンでは、慢性的な宿泊容量不足が発生している。

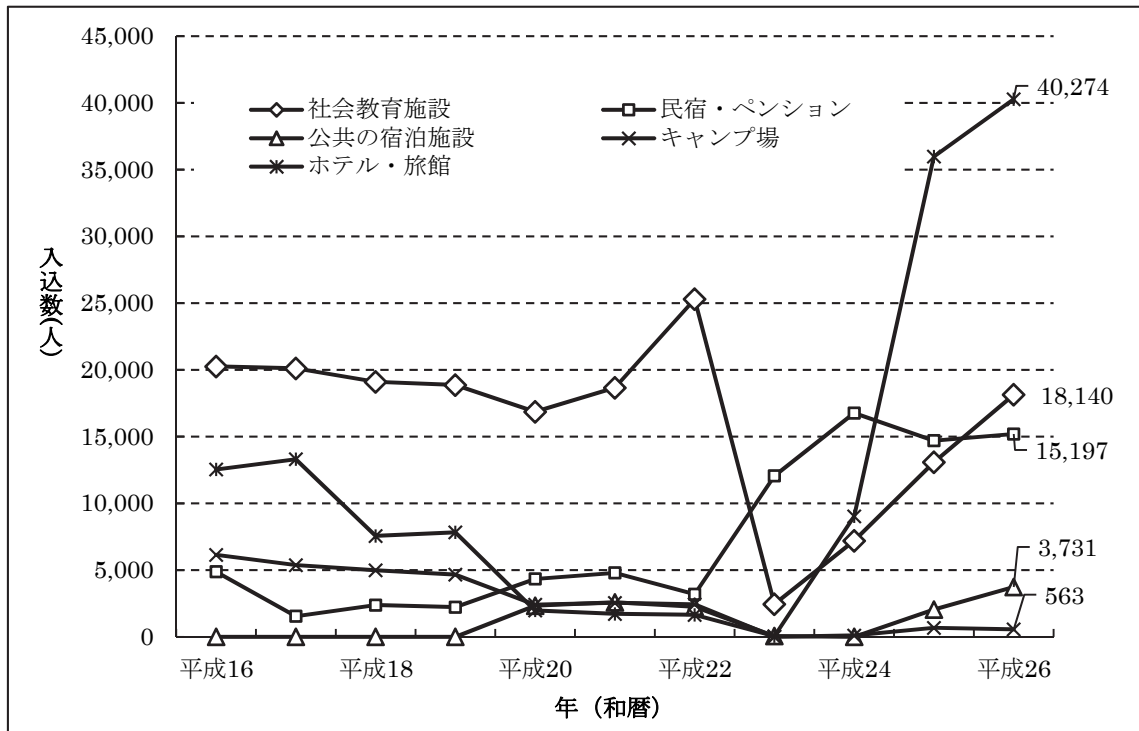
宿泊施設種別に見ると、ホテル・旅館が約 4.0 万人で全体の約 5 割、社会教育施設（青少年の家）が約 1.8 万人で全体の約 2 割を占めている（図 3-20）。

図 3-19 山田町の宿泊客数の推移



資料：岩手県観光統計および山田町提供資料より作成

図 3-20 山田町の宿泊施設種別入込人数の推移



資料：岩手県観光統計および山田町提供資料より作成

(4) 観光資源の被災状況と、これまでの観光復興への歩み

① 観光資源の主な被災状況

東日本大震災により、山田町では、死亡者数 823 人、行方不明者数 1 人、被災家屋の合計 3,369 (46.7%)、うち全壊 2,762 (38.4%)²²、各地の防潮堤被災・倒壊・全壊、防潮堤倒壊・流出、大沢地区の県道崩壊・護岸パラペット倒壊、柳沢地区の国道 45 号道路崩壊・護岸倒壊、JR 山田線全壊・流出・不通といった、甚大な被害を受けた。

観光関係施設においても、全壊・流失等、大きな被害を受けた(表 3-7)。近年大きな人気を集めていたかき小屋も流出した。

体験型観光も同様に被害を受けた。マリン・ツーリズム山田では、かき・ホタテ養殖等地元の漁業を活かした体験プログラムを提供してきたが、東日本大震災の影響により漁船の流出等の大きな被害を受け、漁業そのものへの影響が大きいことから、体験プログラムの提供は中断を余儀なくされた。

表 3-7 山田町の観光資源の主な被災状況

主な観光資源	東日本大震災による影響
大島（オランダ島）	砂浜、トイレ等設備が流出した。観光船が損壊（オランダ島への渡船は不可能となった）。
四十八坂	展望台の柵が一部損壊した。
山田湾	養殖筏がほとんど流出した。一部海岸線（織笠川河口付近他）が縮小。
鯨と海の科学館	展示物の多くが浸水、破損し、休館を余儀なくされた。周辺ががれき置き場となった。
船越家族旅行村	トイレ、休憩所、レストランが損壊。ケビンハウス、オートキャンプ場、バーベキューハウスは休止、チューリップ園、水仙園はがれき置き場、芝生広場、多目的広場は仮設住宅となった。
かき小屋	建物が全壊・流出した。
道の駅やまだ	施設に被害なし。平成 23 年 3 月 18 日から営業を再開した。
荒神海水浴場	トイレが全壊した。砂浜が縮小した。荒神神社の鳥居、狛犬が損壊した。
海上漁業体験&海岸美探勝、陸上漁業体験、オランダ島渡し(マリン・ツーリズム山田)	漁船が流失した。
シーカヤック体験教室	シーカヤックが流出した。

資料：各種新聞記事、関係者へのヒアリングを基に作成

²² 平成 27 年 11 月 24 日（火）15 時発表 3.11 東日本大震災 山田町被害概要より。

② 観光復興に向けた主な動き

山田町では、東日本大震災後、比較的早期から観光復興に向けて、官民を問わず取り組みが行われてきた。復興かき小屋のオープン、鯨と海の科学館の復旧のほか、体験型観光においても、マリン・ツーリズム山田の復活や、震災語り部体験²³の提供、シーカヤック体験の提供²⁴といった民間独自の取り組みのほか、大学や省庁等と連携した取り組みも行われてきた（図 3-21、表 3-8）。

図 3-21 観光復興に向けた取り組みの一例²⁵



復興かき小屋（山田町観光協会）



復興支援企画バスツアー
（岩手大学・山田町）



絆船（はんせん）クルーズ
（やまだ夢プロジェクト）



エコツアー
（山田町エコツアー検討会・環境省）

²³ 新生やまだ商店街協同組合が実施。

²⁴ Geotrail、MESA（釜石）、三陸山田シーカヤックス等が実施。

²⁵ 復興支援企画バスツアーは岩手大学・山田町による連携企画。絆船（はんせん）クルーズはやまだ夢プロジェクトによる企画。復興かき小屋、エコツアーの写真は、（公財）日本交通公社が撮影。

3. 山田町の現状と課題

表 3-8 山田町の観光復興に向けた主な動き

年	月	内容	物販	飲食	施設	旅行	情報	食材	行事	交通	宿泊	組織	体験	他	実施主体
2011	3/18	道の駅やまだ営業再開	○	○	○										山田町特産品販売協同組合
	10/20	魚市場が再開			○			○							山田漁協連合会
	10/23	山田農業まつり開催		○					○						山田農業祭実行委員会
	10/29	かき小屋再開（復興かき小屋）		○	○				○						山田町観光協会
	12/1	夜行高速バス「遠野・釜石号」が山田町まで延伸								○					国際興業
	12/15	夜行高速バス「BEAM-1」が山田町まで延伸								○					岩手県北バス
2012	3/17-18	復興山田がんばっぺし祭り開催		○					○						復興山田がんばっぺし祭実行委員会／山田町商工会
	4/1	船越家族旅行村営業再開			○						○				山田町
	4/7-8	砂利詰めツアー				○									ふんばろう東日本支援プロジェクト
	6/2-3	シーカヤック交流会開催							○			○	○		MESA、三陸山田シーカヤックス
	6/5	宿 木村屋開業									○				宿 木村屋
	6月	ウニ漁再開						○							
	8/5	ビジネスインやまだ開業									○				ビジネスインやまだ
	8/11	やまだ物語・観光やまだ創刊					○								山田町観光協会
	8/28	新生やまだ商店街設立										○			新生やまだ商店街
	9/17	大杉神社神幸祭を開催							○						
	10/28	山田の幸味わい祭りを開催		○					○						山田町／山田観光協会
	12/1	食べ歩きスタンプラリー喰お〜くラリーを実施		○											山田町商工会
	12/9	鮭大漁祈願まつりを開催		○					○				○		
2013	1/11	震災語り部ガイドツアー受入開始											○		新生やまだ商店街協同組合
	1/11-12	山田町の冬の景観・生業の体験ツアー実施											○		いわて景観まちづくりセンター

年	月	内容	物販	飲食	施設	旅行	情報	食材	行事	交通	宿泊	組織	体験	他	実施主体
	3月下旬	鯨と海の科学館が一部再開			○										鯨と海の科学館
	4/6	やまだ観光物産館とっと開業	○	○	○								○		山田町観光協会
	4/21	とっと体験まつり開催		○									○		山田町観光協会
	4/28	さくらまつり開催		○					○						船越家族旅行村まつり実行委員会
	4月下旬	トレーラーハウス竣工				○					○				山田町
	6/9	シーカヤック体験教室				○							○		MESA、三陸山田シーカヤックス
	6/14	「三鉄でつながる地域の絆～思いを人から人へ 日本最強コラボ・グルメ笑シリーズ2」を開催	○	○									○		やまだ夢プロジェクト
	6/26	町のゆるキャラデザイン発表					○								山田町ゆるキャラ製作実行委員会
	7/7	関口神社の例大祭							○						
	11/22	紫波自醸ワインを楽しむ会 in かき小屋		○									○		やまだ夢プロジェクト
	11/23	「新巻さザケオーナー制度」を開始	○												新生やまだ商店街協同組合
2014	1/23	ジオパーク学習会「山田湾・船越半島と人々の暮らし」開催												○	山田町ジオパーク学習会
	2/6	「復興カキオーナー」に加熱用殻付きかきの出荷を開始	○												
	3/16	そば打ち体験交流		○									○		白石集落農業生産組合
	4/6	三陸鉄道・全線開通								○					三陸鉄道
	4/29	三陸山田カキまつりが復活		○					○				○		山田町商工会
	5/25	郷土かるた「山田町カルタ」をお披露目												○	山田町子どもまちづくりクラブ
	6/2	やまだ復興応援隊に4名が着任												○	山田町
	7月	鯨と海の科学館改修工事着工			○										山田町
	7/20	荒神海水浴場オープン			○										山田町
	8/17	オランダ島清掃活動			○										町外ボランティアを含む有志
	8/30	モニターツアー「山田町の『達人』と行く！秘境巡りエコツアー」開催	○			○							○		山田町エコツアー検討会

3. 山田町の現状と課題

年	月	内容	物販	飲食	施設	旅行	情報	食材	行事	交通	宿泊	組織	体験	他	実施主体
	8/31	モニターツアー「千種母さんと歩く『隠れキリシタン、落ち武者伝説の道を歩く』」開催		○		○							○		山田町エコツアー検討会
	9/6	「山田の食と人に出会う観光バスツアー」開催		○		○							○		岩手大学、山田町
	9/13	山田八幡宮例大祭、海上渡御復活							○						
	11/8	モニターツアー「生き生きタイム・トリップ in やまだ」開催		○		○							○		山田町エコツアー検討会
	11/26	県内外の食品関連バイヤー14 業者を招いた水産加工品の商談会を初めて開催	○												
	11/30	鮭まつりを開催	○	○					○				○		山田町
	12/6	『山田町の石碑』報告と語る会												○	岩手歴史民俗ネットワーク主催、山田町教育委員会等
	12/24	JR 山田線宮古～釜石の三陸鉄道への移管受入決定								○					JR 東日本、三陸鉄道
2015	1/17	モニターツアー「山田の楽しさ見て触れて！！人・海・祭り！3 つ揃って山田町エコツアー」開催		○		○							○		山田町エコツアー検討会
	3 月	鯨と海の科学館 躯体（くたい）復旧工事が完了			○										山田町
	3/7	山田線・宮古～釜石間の鉄道復旧工事着工式								○					JR 東日本
	4/19	山田町のさくらまつり		○					○						B G 浦の浜会、町
	4/29	山田・カキまつり開催		○					○						山田の魅力発信実行委員会
	5/3	まごころ復興ガンばっぺし in 山田フェスティバル開催		○					○						まごころ復興ガンばっぺし in 山田フェスティバル実行委員会
	6/22	「食と人」体験ツアーを開催		○		○							○		岩手県北観光
	8 月	マリン・ツーリズム山田再開											○		マリン・ツーリズム山田

資料：各種新聞記事、山田町広報等より抽出・整理

3-3. 観光復興に向けた課題

観光復興に向けた課題について、策定ワーキング委員会（ワーキング会議、各専門部会）で議論を行った。ここで挙げられた主な意見は下記の通りである。

（1）共通する課題について

① 目指すべき方向性

観光を通じて、山田町の地域経済が潤うことが必要である。
観光を通じて、生活の質が維持される（高まる）ことが必要である。
観光を通じて、山田町民の活躍する場ができることが必要である。

② 全体に共通する課題

山田らしい観光の姿を明確にすることが必要である	山田の看板商品をつくることが必要である。 山田への来訪、体験を通じて「山田ファン」を育てることが必要である。 山田の地域資源を大切にすることが必要である。
地域経済とのつながりを強化することが必要である	地場産業を活用することが必要である。 利益が出る仕組みをつくることが必要である。 宿泊型の観光地を目指すことが必要である。
民間事業者や住民が主体となった取り組みを推進することが必要である	民間中心で取り組むことが必要である。 町ぐるみで取り組むことが必要である。 山田町民が山田を学ぶことが必要である。

(2) 個別の課題について

① 物産に関する課題

商品開発に関すること	山田としての柱となる新商品の開発が必要である。
	観光客のニーズに合わせた商品開発が必要である。
ブランド力に関すること	山田産であることの PR 強化が必要である。
流通や販売に関すること	海産物の安定的な確保が難しい。
	新たな販路開拓が必要である。
異業種交流に関すること	生産者との連携を深めることが必要である。
	観光との連携を深めることが必要である。
マーケティングに関すること	市場の把握が不十分である。

② 宿泊に関する課題

宿泊需要に関すること	復興需要終了後の需要が心配である。
宿泊容量に関すること	観光客を受け入れるための宿泊容量が不足している。

③ 飲食、グルメに関する課題

商品開発に関すること	山田の柱となるメニューの開発が必要である。
食材の確保に関すること	山田産品の安定的な確保が難しい。
	一番おいしい時期のかきが入手できない。
	かきの品質が時期によって違う。
異業種との連携に関すること	連携に向けた仕組みやアレンジが必要である。
提供の仕方に関すること	「食」に関するツーリズムの検討が必要である。

④ エコツーリズム・体験観光に関する課題

商品開発に関すること	高単価少人数をターゲットとしたプログラムの開発が必要である。
	新たなアクティビティの開発が必要である。
ブランド力に関すること	山田でのカヤックのイメージが定着していない。
受入体制に関すること	カヤックへの参加のハードルを下げる必要がある。
	トイレの整備が必要である。
情報発信に関すること	モデルコースの作成・発信が必要である。
異業種交流に関すること	かきとプログラムの連携が必要である。

⑤ 観光施設に関する課題

既存施設の効果的な活用に関すること	復興かき小屋のオフシーズン対策が必要である。
	顧客の新規開拓が必要である。
	地元の子供たちの利用促進が必要である。
	ビニールハウスの整備の充実が必要である。
新規施設の必要性に関すること	観光客向けの行き先が思いつかない。

⑥ 町内の観光案内に関する課題

案内看板の整備に関すること	案内看板の整備充実化が必要である。
「人」による案内や人材育成に関すること	多様な観光案内が必要である。

⑦ 交通アクセス、地域内交通に関する課題

一次交通アクセスに関する課題（消費地～交通拠点）	消費地からの交通手段の充実化が必要である。
二次交通アクセスに関する課題（交通拠点～山田町）	交通拠点からの交通手段の充実化が必要である。
三次交通アクセスに関する課題（山田町内）	町内周遊の交通手段の充実化が必要である。

⑧ 誘客・プロモーションに関する課題

誘客方法に関すること	来訪理由の創出が必要である。
受入体制に関すること	受入体制の充実が必要である。